

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤田医科大学 ばんだね病院新A棟	階数	地上5F
建設地	名古屋市中川区尾頭橋三丁目607番、609番、610番の一部、616番、617番、618番、619番、620番、623番、624番	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2021年12月20日
敷地面積	5,918 m ²	作成者	
建築面積	1,001 m ²	確認日	
延床面積	4,022 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.1 ★★★★★

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆ 100%超: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 30%

標準計算

①参照値	184
②建築物の取組み	10
③上記+②以外の	0
④上記+オフサイト手法	5

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		その他
総合 総合病院として、①温熱環境や空気室等の室内環境、②バリアフリーや維持管理等の機能性、③耐震性や非常時の機能確保等の信頼性、を重視した計画とするだけでなく、省エネルギー、省資源、敷地内外にも可能な限り取り組んでいる。		
Q1 室内環境 Low-E複層ガラス採用による建物外皮の性能向上、冷房・暖房が選択できる空調システムの採用等により温熱環境にじゅうぶん配慮している。また、シックハウス対策や換気量の設定など空気質にも配慮している。	Q2 サービス性能 バリアフリーや維持管理等の機能性への配慮、耐震性の向上や非常電源の確保、更新間隔の長い配管の採用による耐用性・信頼性への配慮がじゅうぶんになされている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地周辺部や屋上に緑地を設け、敷地内の環境に配慮している。
LR1 エネルギー 建物外皮性能を高くし熱負荷を抑制するとともに、中央監視システムで主要な用途のエネルギー使用量を計測、見える化し省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用、リサイクル建材の採用により省資源に配慮している。また、オゾン破壊係数ゼロの断熱材や有害物質を含まない材料を使用し、汚染物質含有材料の使用を避けるよう配慮している。	LR3 敷地外環境 屋上の緑化、敷地周辺部への照明の影響抑制など、敷地外の環境に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)藤田医科大学 ばんだね病院新A棟

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.7	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	2.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 2.7	
2. 自然共生	評価点 = 2.3	
3. 循環型社会	評価点 = 3.6	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。